PRESENCE'S NEWS LETTER

自慢できる家造り

住宅(好立地・高性能の家)は資産です

プレゼンスの家造りの考え方は、購入した土地に、一生しばりつけられるのではなく、
未来に向け、変化していくであろうライフスタイルに合わせ、20年、30年後でも
「売却したい」や「賃貸にしたい」などのお客様のご希望が、有利になるよう
資産価値の下がりにくい家造りをご提案しています。

Vol.87
2024年11月号

吹き抜け、オシャレだけど部屋が寒いのでは?

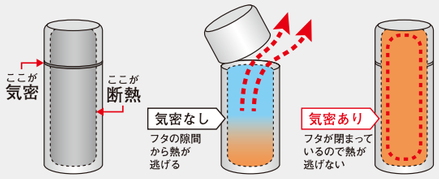
温度によって重さが変わる「空気」。温度が高いほど軽くなるので上にあがり、温度が低いほど重くなり下にさがってしまいます。

吹き抜けがある場合、夏の冷房時、1階は多少効きますが、2階では、冷気が1階にさがってしまうので暑くてたまりません!! 一方、冬は暖房の暖かい空気が上に逃げてしまい、1階が、なかなか暖まらないのがこの「吹き抜け」のデメリットです。

吹き抜けのデメリットを解決するのが 高気密・高断熱住宅の家

「高気密・高断熱」は、家全体が魔法瓶のような構造の家です。だから家の中が外気に影響を受けずに1年中快適に過ごせるのです。部屋ごとの温度差も防げますので、ヒートショック予防も可能な優れた家になるのです。「高断熱」だけで高気密でないと、せっかく暖めた部屋の熱が外に漏れてしまい、なかなか暖まらない家になってしまいます。※下左図解説

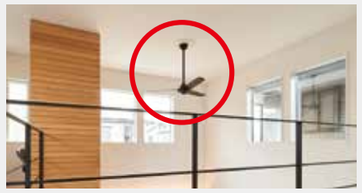
魔法瓶でわかりやすく解説します!

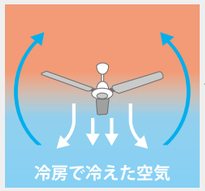


家をまるごと魔法瓶状態にして家全体の温度差をなくすような家を高気密・高断熱住宅といい、吹き抜けがあっても快適に過ごせます。
※体感温度には個人差があります。

◀高気密・高断熱住宅のイメージ

吹き抜けにもう一つ必要不可欠なのが シーリングファン



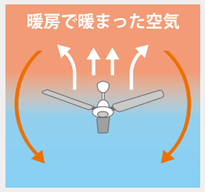


夏と冬で、送風の向きを変えるのがコツ!

夏 冷気は下に溜まるので風を下向きにして循環させる

冬 暖気は上昇するので風を上向きにして循環させる。

(空気をかき混ぜる効果)



「高気密・高断熱」だからできる 広大な開放空間

リビングからロフトへの吹き抜け

玄関ホールから2階リビングへの吹き抜け

吹き抜けだけじゃなく!高天井(勾配天井)

住宅購入は性能重視の時代に!

省エネ基準適合義務化で変わる住宅選び

2025年4月より、住宅の省エネ基準適合が義務化になります。

プレゼンスでは2015年から認定低炭素住宅を始め、
2030年省エネ基準をクリアした住宅を提供しています。

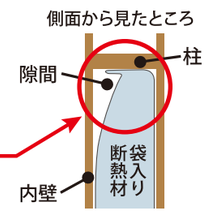
2024年 4月1日	省エネ性能ラベルの表示が努力義務に
2025年 4月	新築は省エネ基準の適合義務化
2030年	新築はZEH水準の確保を目指す
2050年	中古を含めた全体平均でZEH水準の確保を目指す

この省エネ基準適合義務化により、各社分譲住宅は高い断熱性能を謳い文句にした物件が増えてきていますが、その実態は・・・数字だけ!!

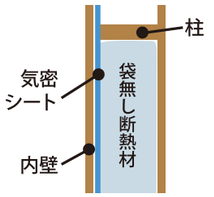
そこで! **プレゼンスの「中の中まで徹底チェック」 断熱材篇**

断熱材の施工についてのNG
コレ、多くの分譲住宅で見られる光景で、一見、問題なさそうに見えますが、**実はNGなんです!**

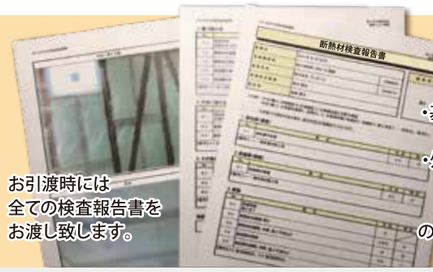
側面から見るとわかるのですが、断熱材の袋の耳を柱の内側で留めているため隙間が出来て、断熱効果が著しく低下してしまうんです。



プレゼンスでは、上記のような懸念から、袋入りの断熱材は使わず、袋無し断熱材を隙間なく充填し、さらにその上から気密シートで覆い、気密性もしっかりと確保します。



第三者機関で断熱材の隙間及び気密の隙間が無いかの検査に合格してから下地のボードを施工致します。



お引渡時には全ての検査報告書をお渡し致します。

検査は
・基礎配筋検査
・躯体検査
・外装下地検査
・断熱検査
・完了検査
の5回行います。

— 住まいとデザインの融合 —
PRESENCE.
Uniting of residence and design
0120-219-117
info@presence-net.jp
https://presence-net.jp/
ZEH builder
株式会社プレゼンス 〒733-0034 広島市西区南観音町12-32 1階